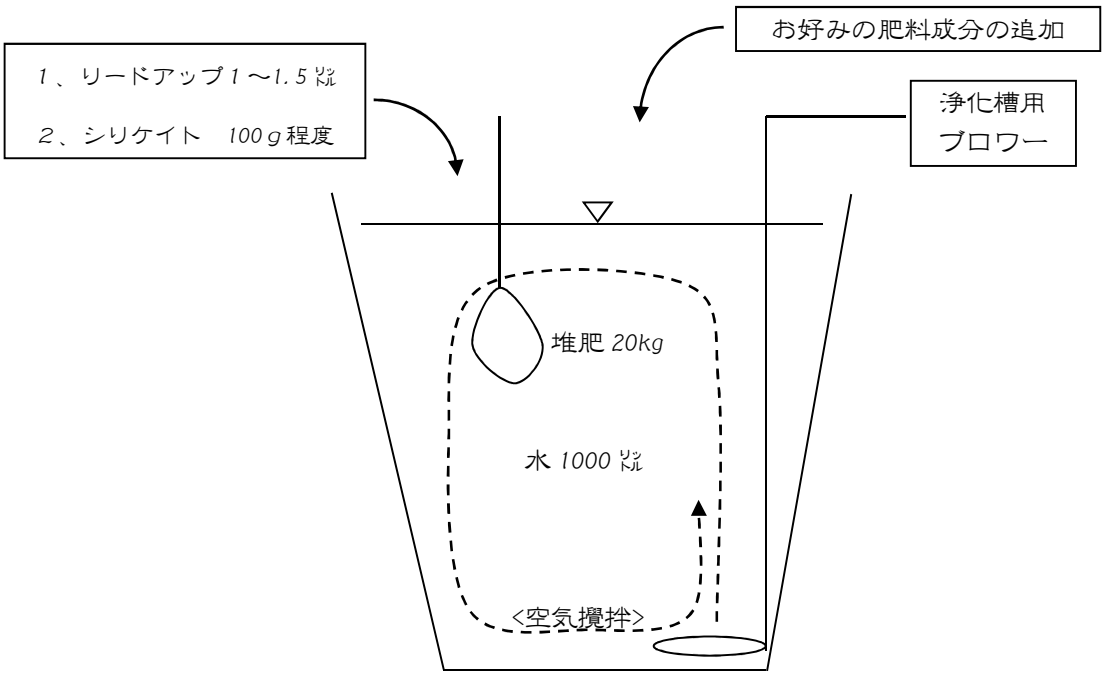
液化堆肥の製法と使用方法

リードアップと堆肥を原料として液化堆肥を製造することで田畑に棲息する土壌菌の活性化、土壌の団粒化、土壌菌への栄養源供給が同時に可能となります。(「液化堆肥の活用法」をご参照下さい。)
また、液化堆肥にお好みの肥料成分を添加されることで作物への栄養源、エネルギー源を同時に供給できるようになります。

1、標準的な液化堆肥の作り方例

<標準的液化堆肥の作り方例(使用タンク 1㎥水槽の場合)>



< 製 造 手 順 >

① 水槽に水を1000 ﾘｯﾄﾙ張る。
② 好みの堆肥(有機質50～70%程度)を20～30kg(水槽容量の２～３%)ネットに入れ水の中に吊るす。
③ リードアップ1～1.5ﾘｯﾄﾙと粉末シリケイトを約100ｇ入れる。
④ エアレーションを開始する。空気量は1分間に40リットル程度。
⑤ 72時間(3日間)経過後堆肥のみを取り出し、エアレーションは継続する。
⑥ エアレーション継続3～5日後、大腸菌群を確認する。
⑦ 大腸菌群確認後、大腸菌群が「不検出」であれば液化堆肥として使用できる。
⇒ 【注意事項】 液に透明感があり悪臭や原料臭がないこと。
大腸菌群が「不検出」であること。
⑧ 大腸菌群が検出されたらリードアップを0.5ﾘｯﾄﾙ追加しエアレーションを継続する。
⑨ 2～3 日後、再度大腸菌群を測定する。大腸菌群が「不検出」になるまでエアレーションを続ける。

2、堆肥から製造した液化堆肥の使用方法

(１)標準製法の場合→田畑 1 ㎡あたり原液10ml(10a あたり10 ﾘｯﾄﾙ)使用
※希釈倍率は田畑の土壌の含水率を考慮してお決め下さい。(例:1 ㎡あたり1 ﾘｯﾄﾙ灌水時100 倍希釈)
(２)上記要領で月1回程度ご使用下さい。ただし、生長期などの状況に応じて2回ご使用下さい。
また、礼肥的なご使用をお勧めします。作物収穫後は田畑 1 ㎡あたり原液10ml 程度ご使用下さい。
作物残渣の腐植化を促進し、次の作物生産に効果的です。
(３)効果的な液化堆肥のご使用方法
①播種、定植時前のご使用を勧めします。
播種:液化堆肥10 倍希釈液に一晩(約12 時間)種を浸漬後、播種する。
定植: 〃 苗を浸漬後、定植する。
※浸漬ができない場合は、10倍希釈液を２～３日連続で灌水下さい。
②葉面散布にもご使用頂けます。